高輪界隈の街と階段・坂を訪ねる

JR高輪ゲートウェイ駅 改札口前 集合・出発　　JR品川駅で解散予定　　約4.8km

1. 高輪ゲートウェイ駅　2020（令和2）年春に暫定開業、2024年頃の街開き時に本開業の予定。隈研吾氏が「和」のイメージで折り紙をモチーフとしてデザインし、幅110m、奥行き35mの膜の大屋根が架けられている。

2. 高輪大木戸跡（東京都指定史跡）（以下は東京都教育委員会標識より抜粋）

高輪大木戸は、江戸時代中期の1710（宝永7）に芝口門（新橋の場所）にたてられたのが起源。1724（享保9）に現在地に移された。現在地の築造年には1710（宝永7）、1792（寛政4）など諸説がある。江戸の南の入口として、道幅約六間（約10m）の旧東海道の両側に石垣を築き、夜は閉めて通行止とし、治安の維持と交通規制の機能を持っていた。

1831（天保2）には札の辻から高札場も移された。この高札場は、日本橋南詰、常盤橋外、浅草橋内、筋違橋内、半蔵門外とともに江戸の六大高札場の一つだった。京登り、東下り、伊勢参りの旅人の送迎もここで行われ、付近に茶屋などもあり、品川宿に至る海岸の景色も良く月見の名所でもあった。

江戸時代後期に木戸の設備は廃止され、現在は海岸側に幅5.4m、長さ7.3m、高さ3.6mの石垣のみが残されている。四谷大木戸は既にその痕跡を止めていないので、東京に残された数少ない江戸時代の交通土木に関する史跡として重要である。

第一京浜　1885（明治18）に一號国道（日本橋－横浜港）に指定された道、通称、京濱國道。1952（昭和27）に国道15号に指定が変わった。関東大震災後の帝都復興事業で大幅に拡幅整備が行われた。

都営浅草線 泉岳寺駅　1960（昭和35）の押上－浅草橋間の開業以後、順次延伸され、1968（昭和43）6月に大門－泉岳寺間が開業して、京浜急行電鉄と相互直通運転が開始された。また同年11月に泉岳寺－西馬込間も開業して、全線が開通した。

JR山手線に新規に開業予定の品川新駅の建設に伴い、泉岳寺駅周辺も再開発が予定されている。京浜急行は泉岳寺駅近くにある本社を横浜に移転するなどして、第一京浜沿いに所有する土地を再開発用地として確保した。泉岳寺駅と品川新駅は将来、連絡通路で結ばれる予定。利用者の増加を想定し、泉岳寺駅のホームも拡幅され、再開発ビルの地下に入り込む計画という。

3. 泉岳寺　曹洞宗の寺院で江戸三箇寺の一つ。1612（慶長17）に徳川家康が外桜田に門庵宗関を招いて創建。1641（寛永18）の大火による焼失後、徳川家光の命で、毛利・浅野・朽木・丹羽・水谷の5大名により、現在の高輪に移転・再建された。浅野内匠頭と赤穂浪士が葬られていることで有名で、毎年12月13日・14日には義士祭が催される。（江戸三箇寺は他に、總泉寺・台東区橋場、青松寺・港区愛宕）

中門　1836（天保7）再建、1932（昭和7）に大修理が行われた。

山門　1832（天保3）再建　二階には十六羅漢が安置され、一階の天井には「江戸三龍」の一つ、銅彫大蟠龍がはめられている。

本堂　江戸時代前期の旧本堂は第二次大戦時の戦災で焼失。現本堂は1953（昭和28）竣工の鎌倉様式のもの。

梵鐘　1913（大正2）作成。江戸から明治まで使われていた梵鐘は、現在、ウィーンの国立民族博物館に所蔵されている。

講堂（旧義士館）　1925（大正14）竣工　RC・2F　2004（平成16）改装され、現在、2階は義士木像館。

4. 二本榎通りへの抜け道　二本榎通りから高輪学園高校校舎とグラウンドの間を折れ曲がりながら抜け泉岳寺門前へ至る。

5. 保安寺　1607（慶長12）開創　曹洞宗　元は八丁堀にあったが、そこが御用地になったため現在地に移転したという。

参道の階段　35段（下から4・3・1・3・3・1・3・2・2・4・9段）

幅1.8m　長さ約30m　高低差7m　蹴上17cm　踏み面47cm　傾斜20°　『東京の階段』p.32

保安寺北側の小階段　9段　2012年にバリアフリー対策のためスロープにされて消失。

堀江歯科　保安寺参道入口わきの洋館。1924（大正3）築

住友不動産三田ツインビル西館（ラ・トゥール三田）　二本榎通りから北方に見える赤色の超高層ビル。

43F（オフィス（1～31F）・共同住宅（賃貸109戸・32～43F）、店舗）、高さ179.3m、2006（平成18）竣工

6. 高輪皇族邸（旧高松宮邸・仙洞仮御所（せんとうかりごしょ）

江戸期　肥後細川家の下屋敷で、大石良雄らの切腹地として知られた場所だった。

明治維新後　海軍病院

1891（明治24）　高輪御殿：明治天皇第六皇女・常宮昌子内親王と第七皇女・周宮房子内親王の住まいとなる。

1913（大正2）　東宮御所（皇太子裕仁親王）～1924（大正13）

1931（昭和6）　高松宮邸となる。

戦後　第二次大戦の空襲では被災しなかったが、広大な敷地は戦後、財産税物納のため払い下げられて半分になった。払い下げられた場所には、港区立高松中学校や都営高輪一丁目アパート、港区役所高輪支所（現 高輪コミュニティーぷらざ）などが建てられ、戦災・引揚市民向けの松ヶ丘住宅地も造成された。

1946（昭和21）　本館が貿易庁の迎賓館「光輪閣」として改装のうえ一般開放され、宣仁親王夫妻は別に小さな木造平屋の邸宅を建て、そこに居住した。

1972（昭和47）　老朽化した光輪閣を取り壊し、跡地に平屋建の宮邸本館を建設。

2004（平成16）　宣仁親王妃喜久子が薨去。その後は「高輪皇族邸」として無人のまま宮内庁が管理していた。

2020（令和2）　上皇明仁・上皇后美智子夫妻が転居し、仙洞仮御所となった。

2022（令和4）　上皇・上皇后夫妻が赤坂の仙洞御所に転居。再び高輪皇族邸として皇族共用の施設となった。

高松宮宣仁（のぶひと）**親王**：大正天皇の第三皇子（1905～87（明治38～昭和62））

高松宮家：1913（大正2）創設。2004（平成16）に喜久子妃が薨去し断絶。

7. 大石良雄外十六人忠烈の跡　かつて肥後熊本藩細川家の江戸下屋敷のあった場所。元禄16年2月4日（1703年3月20日）ここで赤穂浪士の大石良雄（大石内蔵助）ほか16人が切腹した。また、三田のイタリア大使館では大石主税良金ら十士切腹の地がある。この他、水野監物邸（現在の芝5－20・慶應仲通り商店街入口付近）で9名が、毛利甲斐守邸（現在の六本木6丁目・六本木ヒルズの場所）で10名が切腹した。なお、大石父子の切腹の時刻はほぼ同時であったといわれている。浪士たちは切腹後、江戸高輪の泉岳寺に葬られた。

8. とらや　建設年：昭和初期（昭和30年に改造）　1949（昭和24）創業　赤坂の「とらや」とは無関係。東日本大震災の後頃から休業し、その後も建物は残されていたが、2022年に解体。

9. 港区立高輪コミュニティぷらざ（高輪出張所、図書館、区民センター）　1Fは区民ホールと集会室、音楽スタジオ。2Fは展示ギャラリー、絵画・工芸の創作室、3Fは会議室などの区民センターと図書館。4・5Fは区の出張所。6～18Fは住居。高輪の高台（松ヶ丘）と桜田通り沿いの低地の際に建っており、低地側には白金高輪駅があるため利用者の便宜を図るために、高台側の5Fと低地側の1Fを結ぶ直通エレベーターと、外部階段がある。1995（平成7）竣工。

高輪コミュニティぷらざの外部階段　屈折　98段（下から15・14・2F広場・21・4・15・14・15段）

東京メトロ南北線・都営三田線 白金高輪駅　2000（平成12）開業。

10. 名光坂（めいこうざか・なこうざか）**・那光坂**（なこうざか）　昔、このあたりは蛍の名所で、そこから、地名が名光となっていたことが坂名の由来という。『江戸の坂東京の坂』（横関英一）では、この辺の地名に東那光というのがあり、そこから那光坂と呼ばれ、それが後に名光坂になったとされている。

11. 清正公・覚林寺（日蓮宗）　加藤清正の位牌や像が祀られていることから清正公（せいしょうこう）と通称される。1631（寛永8）開山。1845（弘化2）、火災で焼失。現在の山門は1856（安政3）、権現造の清正公堂の拝殿・幣殿は1865（慶応元）に再建されたもの。江戸最初の七福神巡りとされる元祖山手七福神の一つで、毘沙門天を祀る。

12. 目黒通り　江戸時代からある道で、江戸から大鳥神社、目黒不動尊、浄真寺（九品仏）に向かう通り。桜田通りからの分岐点から交差点西側の三角地帯の上辺部分は、恐らく1913（大正2）に東京市電目黒線の付設に伴い造られたもの。昔は日本榎通りから天神坂を下って、桜田通りを横切り、日吉坂へ至る道筋だった。

日吉坂　能役者日吉喜兵衛が付近に住んだためと伝えられる。他に、ひよせ、ひとせ、ひとみなどと書く説もある。

13. 高輪・清正公前交差点東側の階段

16段　幅0.9m　長さ約7m　高低差2.8m　蹴上18cm　踏み面34～60cm　傾斜17～28°　『東京の階段』p.104

高輪1丁目の木造住宅地内の極小階段　3段　　**天神坂北側の住宅地内の階段**　9段

葭見坂（よしみざか）　白金村の畑地が昔は葭原で、これを坂から見下ろしたことから付いた名といわれる。

14. 天神坂　桜田通りから二本榎通りに上る。むかし坂の南側に菅原道真を祀った祠があったためという。

15. 歩道部分だけに造られたステップ　42段（下から12・30段）

16. シティタワー高輪東側の階段　くの字型　36段（下から5・24・7段）

興意親王の墓　興意親王（こうい親王　1576～1620（天正4～元和6））　誠仁（さねひと）親王第5皇子。同母兄に後陽成天皇がいる。織田信長の猶子となるが、信長が没したため15才で聖護院に入り道勝と称した。後に興意に改称。三井寺長吏となる。豊臣氏が方広寺を建立すると、大仏殿の棟札を書いた際に銘文に書くべき大工頭の名を入れなかったことで、幕府に嫌疑を掛けられ蟄居。聖護院寺務や三井寺長吏を退いた。嫌疑が晴れると照高院に移り、その後、江戸に下向し滞在。そこで急死。

17. 石垣の間の抜け道階段　45段（下から7・5・7・3・7・4・2・5・5段）　幅1.2m　長さ約32m　高低差8.0m

蹴上16～20cm　踏み面30～35cm　傾斜25～34°　『東京の階段』p.106

階段下左側は以前は木造住宅地だったが、松光寺の墓地になった。階段の南側は同寺の土地。

松光寺参道　50段（下から15・12・5・2・5・11段）　長さ約35m　高低差約7m

『東京の階段』p.188には以前の様子を掲載。当時は計24段だったが、墓地の整理と共に大幅に改築された。

18. シティタワー高輪（35F、高さ125.9m、365戸、2004年竣工）バブル期の地上げ以降、長期間駐車場だった場所に建つ。

19. 桜田通り　国道1号、桜田門交差点－西五反田1丁目交差点の通称。中世以前から存在する古道で、徳川家康によって新たな東海道が整備されるまでは江戸から西への街道（小田原街道、中原街道）だった。

20. 明治学院大学（港区白金台1丁目、

本館、大教室棟　1993（平成5）竣工　設計：内井昭蔵建築設計事務所

インブリー館（旧宣教師館）　国重要文化財　1889（明治22）頃竣工　木造2F　銅板葺

ウィリアム・インブリー（William Imbrie 1845～1928）博士が住んでいた建物。竣工時は瓦葺だったが、1914（大正3）に火災で屋根と外壁の一部が類焼。1964（昭和39）に現在地に移動され、1997（平成9）に修復が完成。

礼拝堂　1916（大正5）竣工　W.M.ヴォーリズ（William Merrell Vories）　木造平屋

記念館　1890（明治23）竣工　H.M.ランディス（Henry Mohr Landis）　1F：煉瓦造、2F：木造　銅板葺

赤煉瓦造の2F建て瓦葺き屋根だったが、1894（明治27）の地震で大破したため、2F部分が木造に改造された。尖塔も1914（大正3）の火災により類焼して改造されている。関東大震災（1923（大正12））では煉瓦の煙突が倒壊し、2F部分が大破。1966（昭和41）に現在地に移動復元された。

21. 高輪・ザ・レジデンス　東禅寺背後に見えるマンション、桂坂坂上に聳える（47F、高さ154m、574戸、2005.12竣工）

敷地はバブル期の地上げ以降、長期間駐車場だった場所。

22. 承教寺　1299（正安元）に開かれた日蓮宗の寺。当初は芝西久保（港区虎ノ門）にあったが、1653（承応2）に現地に移転し、池上本門寺の末寺となる。1745（延享2）の大火で本堂などを類焼したが、山門、仁王門、鐘楼は焼失を逃れ現存。本堂も1781（天明元）に再建され現存。本堂脇に江戸期の画家・英一蝶の墓（東京都指定旧跡）がある。

23. 高輪消防署二本榎出張所　1933（昭和8）竣工　RC・3F　望楼付

高台にあり竣工当時は海岸線が今よりも近く高層ビルもなかったため、望楼からは東京湾も見えたという。望楼の上の青い塔は、1984（昭和59）に東京都の「文化デザイン事業」により設置されたもの。

24. 高野山東京別院　真言宗。本尊は弘法大師。1655（明暦元）に幕府より芝二本榎に土地が下賜され、1673（延宝元）に高野山江戸在番所高野寺として完成。（御府内八十八箇所１番札所、関東八十八箇所特別霊場、江戸三十三箇所29番札所）
地下に東京電力の変電所がある。

25. 日本基督教団高輪教会　1932（昭和7）竣工　木造平屋　設計：岡見健彦（遠藤新の事務所を経てF.L.ライトに学ぶ）

26. 港区立高輪台小学校　　東京都選定歴史的建造物　1935（昭和10）竣工　RC・3F
東京市立高輪台尋常小学校として開校。関東大震災ののちに建築された復興小学校の最後期のもので、東洋一の校舎といわれた。ガラス面を多くとった階段室や教室は、直線的なデザインで構成されており、モダニズム建築の先駆けといわれる。

27. 桂坂　昔、蔦蔓が絡まる坂だったためという（桂は当て字）。また鬘（かつら）をかぶった僧侶が、品川からの帰途、急死したためともいわれる。明治時代までは現在のような直線の道ではなく、坂の麓と中腹付近の２ヶ所でクランクしていた。
『凹凸を楽しむ 東京坂道図鑑』pp.052－053

桂坂北側の階段　22段（下から10・12段）　桂坂を直線化するために東禅寺裏の谷を横切る堤を造ったため、高輪台小学校南側には窪地ができている。この階段はその堤から窪地に下るもの。

東禅寺裏の階段　30段（下から9・21段）　幅1.2m　長さ10m　高低差5.1m　蹴上17cm　踏み面30cm　傾斜30°
『東京の階段』p.108

28. グランドプリンスホテル高輪北側の階段　48段（下から10・14・12・12段）　下部10段と上部38段の間の平場が長い。以前は階段わきに木造家屋が数棟建ち並んでいた。

29. グランドプリンスホテル高輪（旧 高輪プリンスホテル）　薩摩藩高輪屋敷だった場所で維新後は竹田宮邸となっていた。竹田宮は戦後の1947（昭和22）に皇籍離脱。土地建物は売却され、通産大臣官邸に使用された後、西武鉄道に売却された。1953（昭和28）品川プリンスホテルとして開業。1968（昭和43）高輪プリンスホテルに改称。2007（平成19）グランドプリンスホテル高輪に改称。

グランドプリンスホテル高輪貴賓館（旧 竹田宮邸）　竹田宮恒久（1882～1919）王の邸宅として建てられた。
1911（明治44）竣工　鉄骨煉瓦造　2F・B1F　設計：片山東熊（迎賓館も設計）・木子幸三郎・渡辺譲
高輪プリンスホテルとなった後、1972（昭和47）に村野藤吾により改修・復元された。

30. 東禅寺　臨済宗妙心寺派の別格本山。江戸四箇寺の1つ。最初のイギリス公使宿館跡（都旧跡）
　1609（慶長14）、赤坂に創建され、その後、1636（寛永13）に現在地に移転した。眼前に東京湾が広がっていた事から海上禅林とも呼ばれる。1858（安政5）7月に締結された日英通商条約により、1859年6月6日から、イギリス初代公使オールコックらがここに駐在し、わが国最初のイギリス公使宿館となった。1861（文久元）5月28日夜には水戸浪士の襲撃事件、1862年5月29日夜には警固士のイギリス人殺傷事件があったが、1873（明治6）頃まで使用された。当時、公使館に使用されたのは大玄関及び書院と奥書院で、その一部の奥書院（5.4×9.0m）と玄関はよく残されている（その他は昭和初年に改築された）。
（東京都教育委員会設置の標識から）

31. 洞坂（ほらざか）**・法螺坂、鰡坂**（ぼらざか）　昔、この近辺で法螺（巻き貝）が採れ、洞村（ほらむら）と呼ばれたからとか、窪地状の地形だったために近辺が洞と名付けられたからと言われている。『凹凸を楽しむ 東京坂道図鑑』pp.052－053

洞坂下の洋館　関東大震災後、昭和初期の洋館。1990年頃に売りに出された際、現在の所有者が気に入って購入し、残しながら使い続けている。

高輪館　旧東芝山口記念会館・東芝高輪クラブ、旧朝吹常吉邸　1925（大正14）竣工　設計：W.M.ヴォーリズ
　桂坂途中の高台に立つスパニッシュスタイルの白い洋館。三井財閥の一員で、後に三越や朝日生命の社長だった朝吹常吉の邸宅だった。その後、旧加賀藩前田家を経て東芝グループ所有となり、迎賓館（東芝山口記念会館）として利用されていたが、2016年9月に日本テレビホールディングスに売却された。

32. 柴田錬三郎旧居　『眠狂四郎』『御家人斬九郎』などで剣客ブームを起こした作家、柴田錬三郎（1917－78（大正6－昭和53））が、新宿・柏木から移り住んで亡くなるまで住んでいた家。某財閥の一族だった人の旧宅という話もあるが、いつ頃の建物か、柴田がいつから住んでいたのか、現在の所有状況などは未把握。

33. NTT Docomo 品川ビル　桂坂から海方向に見える高層ビル　29F　高さ145m　2003年竣工

34. さくら坂　グランドプリンスホテル高輪敷地内。さくらタワー前を通り本館へ向かう緩やかな坂。同ホテルによる命名。
ザ・プリンス さくらタワー東京　1998に高輪プリンスホテルさくらタワーとして開業、2007に現在の名称に変更。

35. グランドプリンスホテル新高輪（旧 新高輪プリンスホテル）
薩摩藩高輪屋敷だった場所で維新後は北白川宮邸。戦後、西武鉄道が土地建物を取得。1982（昭和57）新高輪プリンスホテル開業、設計：村野藤吾。2007（平成19）グランドプリンスホテル新高輪に改称。

36. SHINAGAWA GOOS（シナガワグース）・旧ホテルパシフィック東京
ホテルパシフィック東京　1971（昭和46）開業　954室　30F・B3F　高さ112.5m　設計：坂倉建築研究所
敷地は江戸期には薩摩藩高輪屋敷だった場所で、維新後には朝香宮家、東久邇宮家などが居を構えた皇族共用御殿・高輪南町御用邸となっていた。隣接する他の宮邸（竹田宮邸、北白川宮邸）跡地を取得していた西武鉄道との激しい争奪戦の末に、京浜急行が土地を取得して超高層ホテルを建設した。品川駅前の丘の上にあり、庭園を有する立地条件でも知られたが、施設の老朽化を理由に2010年9月末で営業休止。その後、宿泊特化型ホテル 京急EXインや、結婚式場、レストラン、ショップ等からなる複合商業施設、**SHINAGAWA GOOS**（シナガワグース）となった（2011～21）。中央リニアの建設を受け、京浜急行はトヨタ自動車と共同で、京急品川駅と、ウィング高輪EAST（京急品川駅ビル）、線路沿いのビル、さらにシナガワグースやウィング高輪WESTなども合わせた再開発が始まり、旧ホテルパシフィック東京のビルは、現在解体中。

37. 柘榴坂（ざくろざか、別名：新坂）　坂名の起源は不明。ざくろの木があったためか？。江戸時代はカギ形に曲っていたが、明治期に直線化され新坂と呼ばれた。坂の北側の一帯は江戸期は薩摩藩下屋敷（薩摩藩高輪屋敷）だった場所

38. 品川駅　品川駅の西口側は台地の裾野に位置する。開業当初、線路は海岸線に沿って建設され、その東側は海だった。港南側の大部分は明治時代以降に埋め立てにより造成された土地。駅名は品川駅だが、所在地は品川区ではなく港区で、古来からある宿場町としての品川よりは北に位置しており、京急では品川駅の南に「北品川駅」がある。東海道新幹線の駅開業、京急の羽田空港乗り入れ、駅周辺での大規模な再開発の進行などで利用者数が増加している。JR東海が2027年の開業を目指す中央リニアでは、始発駅が造られる予定。また、駅の西側に第一京浜（国道15号が）あり歩行者で混雑していることから、将来的にはここに人工地盤を架け、駅コンコースから高輪方面をデッキでつなぐ予定。

1872（明治5）　西洋建築平屋の品川駅駅舎が完成。新橋（後の汐留）～横浜間が開業
1885（明治18）　日本鉄道品川線（現在の山手線）が乗り入れ
1925（大正14）　京浜電気鉄道（後の京浜急行電鉄）の高輪駅が開業
1933（昭和8）　京浜電気鉄道の高輪駅が現在地に移転、品川駅に改称
1968（昭和43）　京急品川駅～泉岳寺駅が開通　　1976（昭和51）　総武快速線が乗り入れ
1980（昭和55）　総武快速線と横須賀線の運転系統が統一され、直通運転を開始
1998（平成10）　東西連絡通路（レインボーロード）が完成、橋上駅舎化。京急が羽田空港乗り入れ
2003（平成15）　JR東海の東海道新幹線品川駅が開業
2004（平成16）　港南口駅ビル（JR品川イーストビル、アトレ品川）開業
2005（平成17）　エキナカ施設・ecute品川が開業
2015（平成27）　上野東京ラインが完成。宇都宮線・高崎線・常磐線の列車と東海道本線の列車の相互乗り入れを開始。
2016（平成28）　中央リニア新幹線の品川駅着工。
2020（令和2）　京浜急行品川駅周辺の連続立体交差事業に着手
2027（令和9）　年度内に京浜急行の地平化が完成する予定

【町名など】

高輪　戦国時代の軍記物語の中に「高縄原」とあることに由来するという。この高縄は高縄手道の略語で、高台にあるまっすぐな道を意味するという。丘陵の中心部を南北に走る二本榎通りが、高台に張った縄のようであったからと伝えられる。

品川　もともとは目黒川の下流〜河口付近一帯の地域を品川と言った。名の由来は、目黒川の別名だとする説、高輪に対して品ヶ輪とした説など様々あり、明確な理由は不明。現在の北品川、南品川の旧東海道沿いが江戸期の品川宿。明治期に品川駅がかなり北に開業したため、現在は港区内の品川駅周辺（高輪や港南）も品川のように考えられている。

二本榎通り・旧二本榎町　その昔、上行寺（現在の高輪1-27・明治学院体育館）門前に「榎」の木が２本あり、一里塚のしるしとして江戸時代に親しまれていたという。太さ1.2m、高さ10mにもなっていたが、1702（元禄15）と1745（延享２）に町の大火で焼失。しかしその度に上行寺で植え付け、一里塚として守ってきた。そしてこれが町名、通り名の源となった。一帯は海抜25mで江戸湾が眼下に眺望でき、昔の東海道（二本榎通り）を歩いた往来の者の江戸の出入口として栄えた。

参考文献・参考サイト

『江戸東京坂道事典』石川悌二、新人物往来社、1998　『今昔東京の坂』岡崎清記、日本交通社出版事業局、1981
『東京の階段』松本泰生、日本文芸社、2007　『凹凸を楽しむ　東京「スリバチ」地形散歩』皆川典久、洋泉社、2012
『凹凸を楽しむ 東京坂道図鑑』松本泰生、洋泉社、2017　『東京古道散歩』荻窪 圭、（株）中経出版・中経文庫、2010
『川の地図辞典－江戸・東京23区編』菅原健二、之潮、2007
猫の足あと－東京都・首都圏の寺社情報サイト　http://www.tesshow.jp/index.html
東京23区の坂道　http://www.tokyosaka.sakura.ne.jp/index.htm
国立国会図書館デジタルコレクション　報知新聞、明治42年10月1日　http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1920445/101
坂学会　http://www.sakagakkai.org/　各施設のWebsite他、Wikipedia
都市徘徊blog　http://blog.goo.ne.jp/asabata/　東京の階段 DB　http://blog.goo.ne.jp/tokyostair/